

歯科保健指導（含訪問歯科保健指導）

講 師	草原 津代子 生 田 佳 代 中尾 亜希子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （80 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第2学年では、様々な対象者に対応できるよう専門知識にとらわれず情報収集を心がけ基本から応用力を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、グループディスカッション、実技試験				
成績評価の方法	記述試験（定期試験）をおおよそ80%とし、残り20%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3「栄養学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、口腔衛生学と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にすること。 本授業で配付した資料は必ず復習し、次の授業の準備として活用すること。 また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①松田裕子（編集）「オーラルヘルスケア事典」-お口の健康を守るために- 学建書院 ②眞木吉信他（監著）「歯科衛生士教育サブテキスト 臨地実習HAND BOOK」 クインテッセンス出版 ③全国歯科衛生士教育協議会（編）「よくわかる 歯科衛生過程」 医歯薬出版 ④尾崎哲則、埴岡隆（編著）「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」 医歯薬出版 他				
教員の職務経験 （科目との関連性）	歯科医院での勤務経験をもとに、歯科保健指導の基本的知識を講義、実習する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1 5 12	歯科衛生過程の進め方	①歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。 ②歯科衛生過程における構成要素の目的を説明できる。 ③歯科衛生過程における書面化（業務記録）の意義を説明できる。 ④歯科衛生過程の一連の流れを実践できる。
13 14	地域歯科保健活動 臨床・臨地実習の効果を高めるために	①地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。 ②健康教育の計画立案ができる。 ③健康教育の内容を説明できる。 ④地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明できる。
15 18	対象別特徴の把握	①ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。
19	配慮を要する者への歯科衛生介入	①障害児者の特徴を説明できる。
20 27	生活習慣の指導 ストレスマネジメント	①口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 ②非感染性疾患（NCDs）の症例に合わせた歯科保健指導ができる。 ③禁煙指導・支援ができる。 ④ストレスマネジメントの指導ができる。
28 35	口腔機能管理に関わる指導 （口腔機能管理と栄養指導）	①口腔機能について説明できる。 ②口腔機能低下の原因と評価方法を説明できる。 ③口腔機能低下への対応方法を説明できる。 ④栄養の評価方法を説明できる。 ⑤栄養目標の考え方と指導方法を説明できる。
36 39	対象別栄養指導	①妊娠期における栄養の要点を説明できる。 ②授乳期における栄養の要点を説明できる。 ③乳児期における栄養の要点を説明できる。 ④幼児期における栄養の要点を説明できる。 ⑤学童期における栄養の要点を説明できる。 ⑥思春期における栄養の要点を説明できる。 ⑦成人期における栄養の要点を説明できる。 ⑧高齢期における栄養の要点を説明できる。
40	まとめ（復習）	①保健指導の意義を説明できる。